

いじめをなくそう子ども会議



令和5年7月11日(火)に、いじめのない学校・学級を築くために必要なことを話し合う「あきる野市いじめをなくそう子ども会議」が、あきる野市役所の市議会議場において行われました。いじめをなくす上で最も重要なのは、「いじめを生まない」という未然防止の視点に立った取組です。本会議の開催前の6月に、今年度のテーマ「いじめを防ぐために、自分たちに何ができるか」をもとに、市内全校・全学級においていじめ防止に関する授業を実施しました。

めに対する未然防止に向けた取組などについて真剣に考え、提言を作成しました。「お互いに尊重し合える学校生活」「互いの違いを認め合い良いところを伝え合おう」など、様々な提言が発表されました。



【提言】

お互いに尊重し合える学校生活

- (1) お互いに支え合いながら生活する
- (2) 得意、苦手なことを理解し合える
- (3) 普段のコミュニケーションをとる
- (4) あいさつをし明るい雰囲気を作る



栗原市友好親善交流会

令和5年7月27日(木)・28日(金)、あきる野市の姉妹都市である宮城県栗原市において、友好親善交流会が開催されました。本市からは、市内中学校生徒会の代表団17人が参加しました。平成元年、五日市町(現あきる野市)と志波姫町(現栗原市)は、五日市憲法草案の起草者である千葉卓三郎氏が縁となり、友好姉妹都市の盟約を締結しました。それ以来、隔年で互いの市を代表団が訪問し、生徒会や部活動交流を通して、友好を深めてきました。今回は、「学校と地域のつながり」をテーマにディスカッションしたり、千葉氏にゆかりのある史跡などを見学したりしました。来年度は、栗原市から代表団を迎え入れることになりま



令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

本市の全体的な傾向

▼教科調査(小学校(国語、算数)中学校(国語、数学、英語))
小・中学校ともに全ての教科調査において、全国平均正答率を下回りましたが、前回調査と比べると、全国平均との差が、小学校国語、小学校算数、中学校数学で縮まりました。

▼質問紙調査
小学校で97.2%、中学校で96.2%とほとんどの児童・生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答をしていました。

「地域行事への参加」に関する質問では、行事に参加する児童・生徒の割合が東京都の平均を大きく上回る結果になりました。

成果と課題

▼成果

教科に関する調査の結果から、「東京ベーシック・ドリル」等を活用したドリル学習に取り組み、基礎・基本の定着に重点を置いてきたことが、知識・技能に係る問題の平均正答率に成果として現れました。

また、質問紙調査の結果からは、各校の「学校いじめ基本方針」に基づいた取組や、毎月「いじめについて考える日」を設定し、いじめについて話し合う機会を設

けてきたことが、「いじめはいけない」と回答する児童・生徒の割合に成果として現れました。

▼課題

小・中各教科に共通して、自分の考えをまとめて書き表したり、複数の資料から傾向などを読み取ったりする問題の正答率が低く、質問紙調査からも「学んだことを生かすこと」や「話し合う活動で自分の考えを深めること」「課題解決に向けて自ら取り組むこと」など学んだことを活用する力や表現する力に課題がありました。

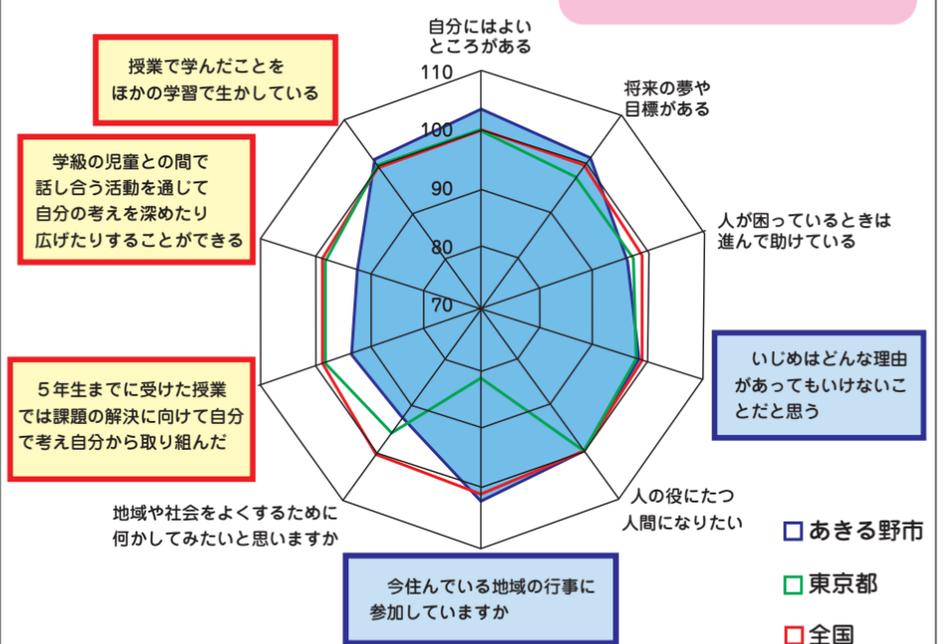
今後の取組

(1)子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行っていきま

す。また、児童・生徒同士が互いの考えを伝え合う機会を増やしたり、自分の考えを表現しやすくする手だてを講じたりするなど、協働的な学習活動を取り入れていきます。

質問紙調査結果

小学校6年生



中学校3年生

